

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
11	川崎市立小田小学校	関口 真弓

学校教育目標	今年度の重点目標
考える力 感じる心 たくましい心と体	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着と考える楽しさを知り、自分は今何をすべきか考え判断することができる力を育てる 自他共に人権を大切にし、心地よい生活ができる態度や豊かな感性を育てる 前向きに明るく生活し、粘り強いたくましい心と体を育てる 地域・保護者の理解と信頼を得、児童の成長を促す

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習への主体的な関わりと基礎基本の習得	一人一人が主体的に学習に取り組めるよう、みんなが分かる授業を重視する。身につけさせたい資質能力を明確にした授業の実践に努める。また、習熟タイムや帯学習の時間を確保することで、基礎基本の学習の反復や定着を高める。	みんながわかる、楽しい授業をめざし、問いや課題を明確にし、自力思考の時間、考えを共有する時間、関連問題を解く時間を設けるなど授業形態や展開に工夫をした。その成果はあらわれており、学習活動に意欲的、主体的に取り組む児童が増え、「授業がわかった」と感じる児童が増えてきている。意欲の高まりはみられるが、基礎基本の定着には時間がかかっている。校内では確固たる力がつくよう習熟タイムや帯時間の活用している。基礎基本の習得に関しては、学習習慣や環境による学力差は大きく、取り出し指導や入り込みによる支援にも力を入れている。	国語科の研究を活用し、語彙力の獲得、音読による読解力獲得、書く力、話す聞く力を身につけていきたい。学習への主体的な関わりができるよう、体験的活動や表現活動などを積極的に取り入れ、学びの興味関心や意欲を継続させたい。基礎基本の習得及び定着のために、取り出しと入り込みの指導をより効果的に行える体制を改善しながら、次年度以降も継続していきたい。また、習熟タイムや帯学習の定着とその学年に必要な具体的な授業展開を作っていく。
2 思考力・判断力・表現力の育成	グループ学習や話し合い活動の授業形態を多く取り入れたり、問題解決的な学習を取り入れたりしながら、自分の考えや意見をもち、それを伝えたり、表現し活用したりする授業の実践に努める。	日々の授業実践を通して、問いを明確にし解決していく学習を進め、自分の考えを持つことやそれを伝える力を育ててきた。また、推進している国語科の授業研究を行うことで、さらに自分で読み取った考えを伝え合う楽しさや書くことで自分の考えを表現し伝える意欲の高まりは見られてきている。しかし、自分の考えを相手に伝える言語力の育成は十分といえず、これからも継続していく必要がある。	単元を通して身に付けさせたい資質能力を各学年で話し合い、問いを解決していく学習を進め、自分でまず考える意識を定着させる。その後、全体で考えを出し合い交流し、問いを解決を行っていく。その中で、自分の考えを伝えるための表現力を育成していく。学習指導要領に合わせた教育課程と本校独自の横断的教科の教育課程のカリキュラムマネジメントを毎年積み重ねていく。
3 ともに学ぶ楽しさの実感	自他の考えや思いを大切にしながら、ともに学び合うことにより、学ぶ楽しさを実感できる授業実践に努める。	取り組んできたキャリア在り方生き方教育の研究実践を生かし、授業の中での話し合い活動やグループでの学び合いをする場面が定着してきた。お互いの意見や考えを受容し合う雰囲気も生まれてきており、自分の考えを進んで発言したり、学びあったりすることの楽しさを実感し始めている。また、基礎基本の大切さも理解してきている。	お互いの意見や考えを認め合う受容的な意識はどのクラスにも生まれてきているので、聴き方を大切にし、話し手が安心して話せる環境を徹底していきたい。共に学ぶ楽しさを感じられるよう、考えを共有し、個々の考えが深まり広がっていく手立てを授業でおこなっていききたい。
4 優しい心と豊かな感性の育成	異学年の交流活動や道徳、集会活動等を通して、人の気持ちを感じ取れる優しい心を育てる。また、読書や音楽、体験活動等を通して、豊かな感性を養うとともに、言語環境や教室環境を整えることに努める。	異学年交流の「なかよし活動」が継続して行われており、その成果がみられてきたことを教職員が強く実感している。学年を問わず、みんなが仲良くできるように、相手を思いやる気持ちと姿勢が芽生えてきている。相手を思いやる優しい心は校内に留まらず、校外で迷子になった方の道案内をしたり、転倒した方を助けたりする行動も生みだしている。図書室利用が増え、本を読む児童が増えてきた。毎月1回の音楽集会では、全校で合唱する機会をコロナ後設けることができるようになった。	今後も「なかよし活動」を継続し、相手を思いやる気持ちを育む。朝の読書活動は、保護者と保護者のOBによるボランティア読み聞かせと自主読書を行う。そして、ボランティアと司書に整備された図書室への利用もを行い、週3回は本に触れる機会を設けるようにしていきたい。音楽集会も継続し、学校目標の「感じる心」の育成を図っていきたい。
5 責任感や自主性の育成	総合的な学習の時間、当番や係、クラブ・委員会活動等を通して、自分の役割や仕事を責任をもって最後までやりぬくように指導する。また、集会や縦割りの活動、行事の実行委員会等の活動を通して、判断力や自主性を育てる。	6年生の総合では、「学校をより良くするために」という課題で、それぞれが考えたためあてで1年間活動した。児童の手によるクラブ設立や委員会活動の見直しをするなど、時間をしっかり確保することで、児童の主体性を重視した児童会活動の取り組みが数多く見られている。低学年においても学級の当番や係活動に進んで取り組む姿としてみられている。課題としては、活動や考えを深め、広げる力がまだまだである。そこに、今まで以上に職員が寄り添っていきたい。	総合的な学習の時間や特別活動では、子どもたちが主体的に活動に関わり、自分たちで活動をつくり上げていくことを大切にしてきた。その成果として、自主的に活動を進めることを普通にできるようになってきている。今後も粘り強く活動を続ける姿勢や責任感を持つ支援・指導をしていく。

6	人とかかわり方	あいさつやありがとうの奨励、集団の一員であることの自覚を促すことなどを通して、社会性を育てる。	朝のあいさつ運動はかなり定着してきており、多くの児童の声がかえってきている。1年生から何かしてもらったら「ありがとう」が言えることの大切さを伝えた。共生・共有プログラムの実施と効果測定による、人間関係づくりや学級づくりを継続して行っており、いじめなども含めた成果も出てきている。しかし、個々の子どものなかにはまだまだ人間関係をうまく築くことのできない子がいる。	作成した共生・共有の学級ごとの目標及び年間計画をもとにして効果測定で学級の実態を把握しながら計画的にプログラムを実践した。来年度以降も継続していく。あいさつやありがとうは、自主的に行えるようにさらに環境を充実させていく。また、人間関係作りの問題点の把握だけではなく、早急に対応するような学校体制作りをより強固にしていく。
7	健康な生活と体力の向上	健康安全指導やキラキラタイム等を通して、自身の健康に関心をもったり、進んで体力作りに取り組んだりするよう指導する。また、体育の授業を通して、日常の生活で体を動かすことや健康の大切さに気付く心を育てる。	保健委員会や給食委員会の朝会での健康や安全への意識付けを図る活動は定着してきており、効果も上がっている。栄養士による給食指導を年間数時間行うことができた。運動委員会主催の運動集会を今年度は実施した。体力の向上には至っていないが、意識付けにはなったと思う。しかし、体力の向上にはまだまだ多くの課題がある。夏の暑い時期は活動を慎重にならざるおえない。	健康な生活を行うために、大切なことを学級活動などで指導・支援を行い、子ども達の活動に変化はみられてきている。普段の生活を見直すきっかけになった。課題としては、体育学習はもちろん、キラキラタイムなどで学校として計画的に体力向上に取り組んでいく。夏季の時期は熱中症指数を観ながら活動を慎重に行う。
8	人権尊重	一人一人の個性を尊重し、人権を尊重する意識や態度を身に付けられるように努める。川崎市子どもの権利に関する条例や川崎教育プランで謳われている共生・協働の考えを再確認し、教職員と子どもがともに人権意識を高められるようにする。	いじめや暴力を許さず、教師による体罰などを根絶することは当然のことであり、人権尊重を基盤とした教育理念のもと学校運営を行っている。また、体罰・いじめ等では、すぐに関係会議を開き対応をしている。また、熱心なあまり教師から強い言動が見られた場合にはすぐに対応し、職員全体の研修等を行うなど全体に周知し、継続的にやっている。	共生・共有プログラム年間計画を生かし、エクササイズを通して、よりよい人間関係づくりやSOSの出し方を知らせるなど多面的に行っていく。川崎市子ども権利条例を児童一人一人に理解させ、キャリア在り方生き方教育を通して人権意識を育てていく。また、いじめや体罰等の研修を通して、教職員の人権意識も高めていく。
9	児童指導	児童の実態を把握し、共有することにより、問題行動やトラブルを未然に防ぐ取り組みを進める。問題行動や児童間のトラブル等が起こったときは、迅速に対応し、保護者への説明や対応を誠実に進めることに努める。	児童支援コーディネーター・教務主任・養護教諭・学年主任・管理職を中心とした児童支援グループ会議がしっかりと機能し、情報を共有しながら協力して児童理解及び指導にあたる事ができている。また、迅速かつ誠実な対応ができている。課題は、学校全体での対応は機能しているが、学級・学年での対応がまだまだ弱いことと「報・連・相」の徹底である。	児童支援グループ会議が定着してきたので、全教職員で児童理解を進め、指導にあたることをさらに推進していく。個別支援の経年変化は、年度引継ぎでしっかり話し合われてきている。児童の学校での様子を積極的に発信し、今まで以上に保護者の信頼と協力を得られるようにしていく。
10	防災安全	「学校防災安全マニュアル」や避難訓練、防災教育を通して、学校の安全対策を進める。	「学校防災マニュアル」の内容を毎年更新し、そして、職員への周知徹底していく。避難訓練は、その都度反省をしっかりと行い、訓練内容も充実し、児童の態度、意識が高まってきている。今年度も津波避難訓練などいろいろな場面を想定した訓練を通して問題点を出し合った。来年度に向けてさらに改善を行っていく。	総合防災訓練時の児童引渡し訓練を今年度も行った。保護者の協力も得て比較的スムーズに行われた。今後も、学校の安全対策について保護者への周知に努め、児童の安全に関して協力して対応していけるようにする。防犯研修も継続して行っていく。
11	地域との連携	学校教育推進会議や学校公開の場を通して、地域への理解を図るとともに、総合的な学習や各教科の学習の中で、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。	キャリア在り方生き方教育を通し、「私たちの町川崎」の視点から、地域学習や地域の方たちとの関わる活動を見直し、充実発展させた。低学年の町たんけん、中学年の地域探しや地域防災、福祉体験、高学年の社明パレードなど、それぞれの学年での地域学習は定着している。全校公園美化活動を今年度も行い、自分たちもゴミを捨てないという意識をもつことができた。	各学年の地域と関わる学習は、定着していると同時に活動も年々工夫されているので、今後もこの方向で継続していく。全校公園美化活動は自分達の町への意識を育んでいる。主体的に地域と関わっている。この姿・活動を今後も継続させていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>学校教育推進会議の中でいただいた意見や感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観をして子どもたちが進んで発言したり、グループで助け合って学習を進めていたりする姿に本校のよさであると感じた。 ・地域とのつながりを大切にし、町へ出での学習をしていることを知った。 ・自分たちの学校をよくしようと主体的に活動している様子が分かった。 ・GIGA端末を活用して、様々な授業を行っていることが分かった。 ・不登校やいじめの対策対応を行ったり、教育相談日を設けたりしている事を知った。 ・買い物学習は社会に出て一番大切。 ・携帯電話を小学生がもつようになっていくと知った。 ・SNSでの事件もある携帯を与えるのは簡単だが家庭管理が大事。 	<p>今年度は「国語科」の研究を進めてきた。その成果として、研究のスタート地点ではあるが学校の教育活動全体で子どもを育てていく共通理解が全職員でできた。また、図書室利用も増え、本に親しむ姿が増えた。特別活動を通して育った自主的な姿が教科学習で生きたり、教科学習で育った友達と関わる力や意欲が児童支援に生きてきたり、児童支援を通して育った心が教科学習や特別活動の中で表れたりと全ての教育活動につながっていた。成果が少しずつではあるがみられてきている。継続してよりよく生かしていくことが大きな課題である。また、取り組んでいる教科の横断については深まりがみられている。来年度は、今年度以上に全教員が教科指導の工夫の仕方を考え、自信をもって授業を行っていけるように授業力の更なる高まる雰囲気を作っていきたい。</p> <p>児童の自主的な活動が増えてきたこと、なかよし活動などを通して心の豊かさや優しい感情が芽生えてきていると評価できる。児童支援COが保護者や児童指導に関わるが増えてきた。教育相談日を月毎に1回設けた事で担任や児童支援COと話しやすい関係になれたらと思っている。</p>